

[成果情報名] 静岡県伊豆地域におけるイチゴ狩り園発展モデル作成のための経営試算

[要 約] 伊豆地域におけるイチゴ狩り園では、市場出荷と比較して売上や所得で優位であり、観光地に立地することでさらに所得の増加が見込める。イチゴ狩り組合に加入する場合、大規模経営が可能である。

[キーワード] 観光農園、イチゴ狩り、大規模経営

[担 当] 静岡農林技研・経営・生産システム科

[連絡先] 電話 0538-36-1551、電子メール agrikeyei@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 経営

[分類] 技術・普及

---

[背景・ねらい]

静岡県伊豆地域では、地域の特色である豊富な観光資源の活用が期待されている。伊豆地域におけるビジネス経営体の育成方法として、観光・直売等を取り入れた経営体を育てていくことが重要である。そこで、観光・直売等を取り入れた経営体の代表事例であるイチゴ狩り園を対象として、経営試算を行い、地域の経営モデル策定の資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 伊豆地域における代表的なイチゴ狩り園の経営形態は、個人経営と組合加入の2形態がある。伊豆地域で規模拡大する場合、平坦地に立地する組合形式では平均農地面積から100a、傾斜地に立地する観光地の個人経営ではイチゴ栽培可能面積から30aが保有する農地内での目標面積である（図1、図2）。
- 2 イチゴ狩り園（試算B）は、受付案内の手間や看板やトイレなどの施設整備費は増加するが、収入ではkgあたり単価が高く、収穫出荷時間が大幅に削減されるため、市場出荷する場合（試算A）と比較して売上や所得で優位である（表1、表2）。
- 3 イチゴ狩りシーズン中に多くの観光客が訪れる観光地に立地する場合（試算C及び試算C'）、旅館や駅へのマイクロバスによる送迎を行うことで集客数の増加が見込めるため、一般の地域（試算B）と比較して、経営規模の拡大以上に所得の増加が期待できる（表1、表2）。
- 4 組合加入形式での経営（試算D及び試算D'）では、個人で駐車場や受付などの施設を整備する必要がなく、受付やハウスまでの誘導も組合職員が行うため労力も軽減でき、大規模化が可能である。イチゴ狩りと平行して市場出荷も実施することで、イチゴ狩りの余剰分なども無駄なく販売できる（表1、表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 試算した経営はいずれも伊豆地域に立地することを想定し、入園客数は3500人/10a、入園料は1220円/人を基本的な前提条件としている。
- 2 行政や普及センターが、イチゴ狩り経営者や産地に対する指導・助言をする際に利用できる。

[具体的データ]

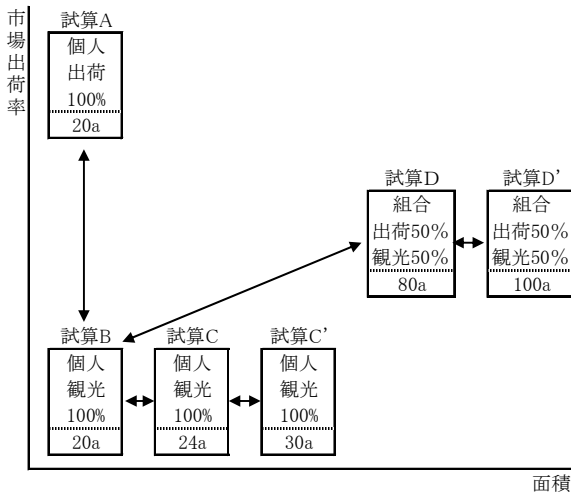


図1 市場出荷率と経営面積による観光イチゴ狩り経営試算の分類  
(矢印は試算内容を比較したペアを表す)

表1 イチゴ狩り園の経営試算内容

	A	B	C	C'	D	D'
経営・販売形態	市場出荷	個人・観光 (イチゴ狩り)	個人・観光 (イチゴ狩り)	Cの発展形	組合・観光 (イチゴ狩り)	Dの発展形
経営規模	20a	20a	24a	30a	80a	100a
観光割合	0	100%	100%	100%	50%	50%
直売の有無	なし	あり	あり	あり	なし	なし
立地対象		個人客	観光地	観光地	観光地周辺	観光地周辺
家族労働力	2人	2人	2人	2人	3人	3人
雇用労働力	1人	-	1人	3人	4人	6人
総労働時間	3,085	2,463	3,951	6,131	9,330	12,860
出荷量	10,000kg	-	-	-	22560kg	34,600kg
直売量	-	1,510kg	1,680kg	1,500kg	-	-
入園客数	-	7,000人	12,000人	22,500人	12,000人	20,000人
売上高	993万円	1106万円	1744万円	2995万円	3658万円	5732万円
経費	590万円	483万円	802万円	1180万円	2368万円	3223万円
所得	403万円	623万円	942万円	1815万円	1290万円	2509万円
損益分岐点						
売上高	450万円	449万円	620万円	746万円	2230万円	2781万円
出荷量	4530kg				17515kg	21873kg
直売量		1926kg	2282kg	2868kg		
入園客数		1052人	1965人	2197人	3155人	3902人

イチゴ狩り農家からの聞き取りデータを、静岡県農業技術原単位2010年版の算出項目に組み込み、試算した。

表2 イチゴ狩り園の集客、収入・経費、労働時間等の試算値の比較

試算比較	A→B	B→C	C→C'	B→D	D→D'
集客					
客数(人)	+3500	+1500	+2500	-500	+1000
収入					
合計(千円)	+563	+1738	+2717	-956	+1160
入園料(円/人)	+1220			-120	
直接費					
小計	-141	+640	+541	+743	+98
資材費	-132	+30	+42	+68	+41
運賃	-183			+59	+33
手数料	-365	-28	-54	+61	+80
その他	+139	+92	+153	-182	+16
経費(千円)					
小計	-542	+93	+141	+6	+170
変動費					
小計	-683	+733	+681	+749	+268
減価償却費	+31	+154	-53	-72	-4
修繕費	+8	+57	-18	-22	-1
固定費					
その他(HP、チラシ、観光協会費)	+108	-18	-18	-108	
小計	+147	+194	-89	-202	-5
合計	-536	+926	+592	+547	+263
育苗					
小計				-130	
本圃					
下葉かき	-120				
摘蕾・摘果	+53	+23	+38	-30	+8
客引き後の手入	-67	+23	+38	-19	+8
小計	-392			+125	+71
労働時間(h)					
収穫					
選別・調整	-261	-15	-56	+280	+13
出荷	-18			+9	
小計	-671	-15	-56	+414	+83
その他					
客の送迎・誘導	+227		+113		
受付案内	+423	+181	+302	-332	+30
出役	+4	-1	-1	+1	-1
小計	+427	+407	+415	-332	+29
合計	-311	+415	+397	-66	+120
必要設備※					
トイレ	3台				
受付スペース	90万円				
駐車場	50㎡				
看板	400㎡				
マイクロバス	6枚	11枚			
		1台			
		472万円			

数値は10aあたりの試算値を比較した場合の増減を表す(例:「A→B」は、「Bの値-Aの値」を表す)。※印は形態変化に伴う実数を示す。空欄は変化のないことを示す。

[その他]

研究課題名：東部・伊豆地域における観光・直売等を取り入れた農業経営モデルの作成  
 予算区分：県単  
 研究期間：2008～2010年度  
 研究担当者：大石智広、済木千恵子、鈴木康詞